

東京国際空港再拡張事業に係る 環境監視委員会(水環境WG)の開催

記者発表資料

東京国際空港(羽田空港)の4本目の新たな滑走路となるD滑走路の建設工事は、平成19年3月30日に現場着工し、着工から1年が経過しました。この間も、東京湾の水環境に与える影響を極力回避する施工方法で工事を進め、工事により発生する濁りの監視を徹底するとともに、学識経験者や関係自治体から構成される「環境監視委員会」を定期的で開催し、第三者によるチェックを受けながら工事を進めて参りました。

今般、平成20年度第1回目となる環境監視委員会(水環境WG)を平成20年5月7日(水)に開催し、工事着工後1年間の工事による濁りの状況(平成19年3月30日~平成20年3月31日)をとりまとめるとともに、地盤改良後の新たな工種となる埋立部の護岸築堤工(岩ズリ投入)による濁りの状況(平成20年1月~4月末まで)について委員会(水環境WG)に諮り、環境監視上問題ないことが確認されました。(参照:<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>)

また、議事終了後、工事海域及びトレミー船による岩ズリ投入状況を間近に視察し、濁りが局所的であることを確認しました。

今後も継続して、濁りを極力発生させない施工方法で工事を進めるとともに、環境監視を徹底し、その結果を定期的に環境監視委員会に諮るとともに、学識経験者等の第三者の意見を踏まえながら工事を進めていく予定です。

なお、環境監視方法としては、工事区域外周部に6点の環境監視ポイントを設け、毎日午前中、環境監視ポイント毎に上層(海面下50cm)、中層(海面下5m)、下層(海底面上1m)の3層の水質調査(濁り含む)を実施するとともに、工事区域から十分に離れた(工事の影響が生じない)東京湾内や多摩川の6地点を環境監視目標の基準点に選び、その基準点における濁りと環境監視ポイントでの濁りを比較して、環境監視を実施しています。濁りとしては、現地で見測した濁度から換算した濃度を濁りの指標としています。

平成20年5月13日

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 竹田・近藤
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 5F
電話 03-5756-6573
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

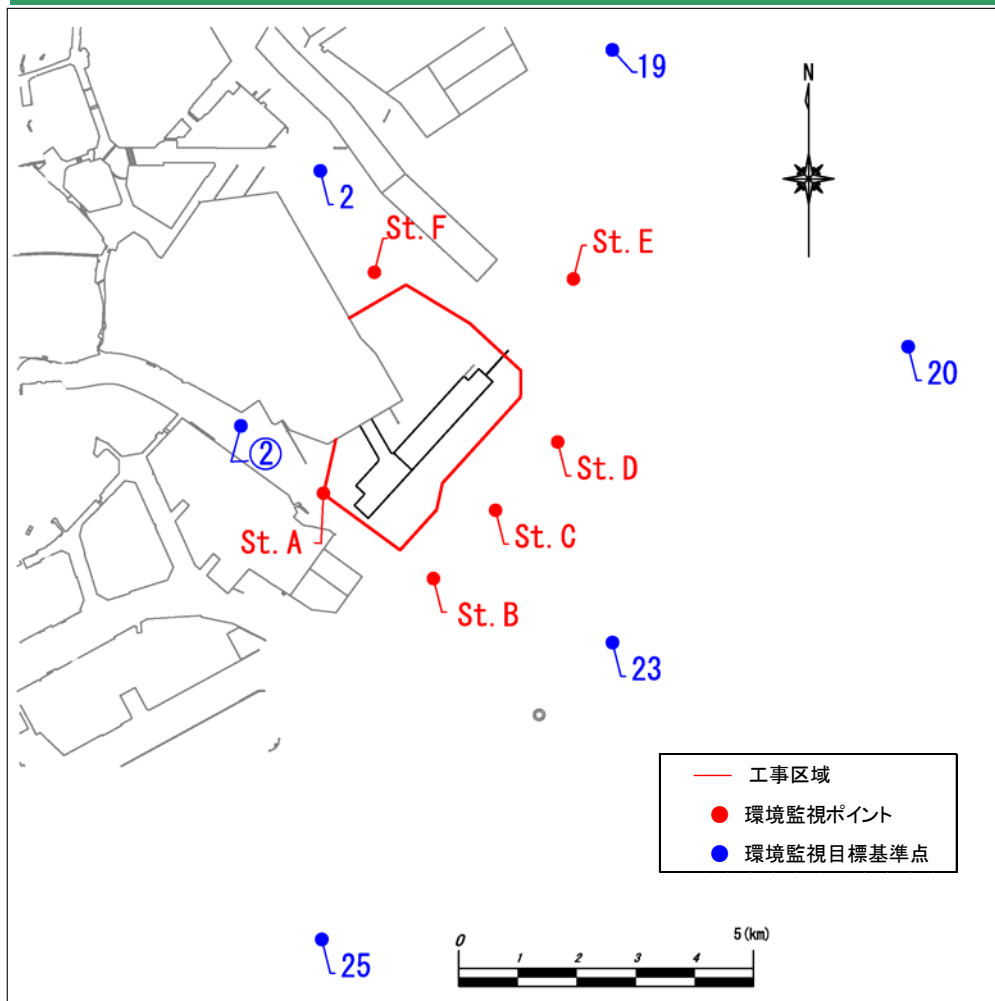
同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 委員構成

委員会区分	WG区分	氏名等	所属
委員長	水環境WG 大気環境WG 委員	清水 誠	東京大学 名誉教授
委員	水環境WG 座長	小倉 紀雄	東京農工大学 名誉教授
委員	水環境WG 委員	古川 恵太	国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長
委員	大気環境WG 座長	猿田 勝美	神奈川大学 名誉教授
委員	大気環境WG 委員	時田 保夫	(財)小林理学研究所 顧問
関係者		東京都	環境局 都市地球環境部 企画調整課長
関係者		神奈川県	環境農政部 環境影響審査担当課長
関係者		千葉県	環境生活部 環境政策課長
事務局		関東地方整備局	
事務局		東京航空局	

環境監視地点<水質>



東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議 事 概 要

【開催日時】 平成20年 5月 7日（水） 13：30～14：30

【議 題】 ・東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果<日々の濁り監視>について
・その他

【出席者】 小倉座長、清水委員、古川委員、東京都、千葉県、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、財団法人港湾空間高度化環境研究センター

【開催場所】 東京空港整備事務所 分庁舎 5階A会議室

【資 料】 資料-1 環境監視結果<日々の濁り監視>
資料-2 護岸築堤工の使用材料について
資料-3 環境調査の充実について

1. 開会挨拶

2. 座長挨拶

3. 議 事

3-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果<日々の濁り監視>について

資料-1にて、日々の濁り監視結果について説明を行った。

委 員：資料-1についてご意見があればお願いします。

委 員：ページ1-1の2)に「岩ズリ投入が開始された平成20年1月から」とあるが具体的な投入日が分かれば、教えて頂きたい。図1-2の中で、岩ズリ投入以降の影響を判断するために、投入日が知りたい。

事務局：岩ズリ投入開始後、濁りの結果に明確な変化は確認されていない。投入初日は12月27日であり、それ以降は正月明けの1月9日から投入を実施している。図に明記するよう表現の仕方を工夫する。

委 員：“岩ズリ”とは専門用語か。岩石を砕いたものというような認識でよいか。

事務局：石材の掘削段階で発生した余材(石材)とご理解頂きたい。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議事概要

委員：前回のWGでは、D0(飽和度)が150%を超えているのは、赤潮の影響という話であったが、2月、3月にも出ているところがある。どういう状況なのか。

事務局：現地での目視確認においては、赤潮は確認されておらず、クロロフィルの数値についても10~15 μ g/L程度で推移している状況にある。塩分濃度から河川水の影響も考えられる。

委員：管理目標値を3回(1月9日、2月6日、4月10日)超過しているが、工事の影響ではなく、降雨時の多摩川の出水等による影響であるため、特に問題はないと考えられる。

3-2 その他

資料-2にて、護岸築堤工の使用材料について説明を行った。

資料-3にて、環境調査の充実について説明を行った。

委員：工事による濁り監視については、特に問題ないことを説明しましたが、その材料等に関し、資料-2、資料-3についてご意見があればお願いします。

委員：資料2のページ2-3にトレミー管による岩ズリの投入状況の写真が記載されているが、このトレミー管はどれくらいの深さまで伸びているものなのか。

事務局：海底上3m程度まで伸ばしている。トレミー管は、現場の状況に合わせて伸縮可能である。

委員：資料2のページ2-5に築堤材の仕様規格が記載されているが、これは、一般的な仕様規格なのか。それともこの工事に関して仕様規格を決めたものなのか。

事務局：この材料に関する液状化を対象とした模型振動実験結果から物理特性を考慮して設定している。

委員：環境調査の充実について、「毎日の対応」以外の対応については、今回新たに設定するものなのか。調査項目はどのように考えているのか。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議事概要

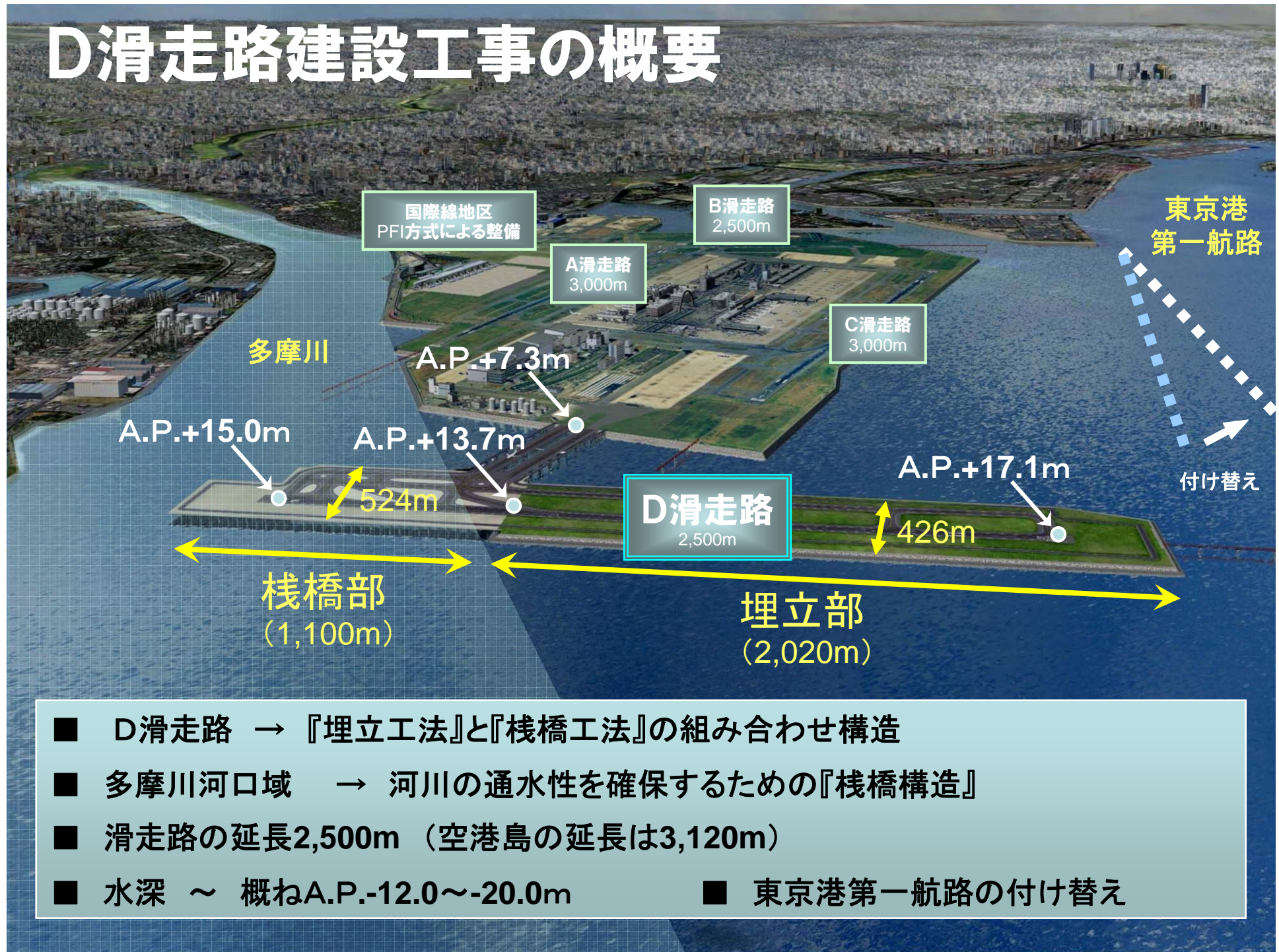
事務局 : 今回、発注者側として、データのクロスチェック強化の意味も含め対応したいということ考えている。項目については、SSだけではなく、一連の水質項目(水温、塩分、DO、濁度、pH、クロロフィル)について実施することを考えている。環境監視計画は従来通り実施し、発注者としてプラス α の調査について実施していきたいと考えている。

委員 : トレミー船による岩ズリの投入等については、局所的な濁りについての状況把握が必要なのではないかと理解している。そのような局所的な影響は、環境調査の充実に記載の「毎週の対応」において、目視確認による状況把握を同時に実施することで対応できるのではないか。

事務局 : 可能な限り局所的な目視観測も並行して実施していくこととしたい。

以上(終了)

D滑走路建設工事の概要



- D滑走路 → 『埋立工法』と『栈橋工法』の組み合わせ構造
- 多摩川河口域 → 河川の通水性を確保するための『栈橋構造』
- 滑走路の延長2,500m（空港島の延長は3,120m）
- 水深 ~ 概ねA.P.-12.0~-20.0m
- 東京港第一航路の付け替え